



本づくり研究会

たてかわふみこ

第4回 私の本づくり体験 コミケで売る本・手づくりの巻

2012.8月のコミケ本「タリン」の出来るまで

コミケット 82 に参加することになり、私は、エストニアのタリンの本を作ることにした。タリンには3回行っているが毎回3日間くらいの短い滞在。過去の旅と最近の旅と時系列が違うが、無理やり一冊にまとめた。以下、この本が出来るまでの汗と涙の実践記録である。

1、本のテーマは？

本を作るにあたって、まずどんな内容の本にするかが一番重要ポイント。今まで旅行記的な本ばかり作ってきたが、あるとき、「なぜ旅行記はつまらないか」という知恵蔵の書き込みを見て、ハッとしました。読んでもらうためには面白くなくてはならない。面白い本というのは、その人ならではの面白い体験や感想が書いてある本だと思う。その人自身が深い知識や独自の視点を持ち、まず面白い人でなくてはならない。私自身、コミケで色々な本を見て、ガイドブックのように、行ったところの報告をしてあるだけの本は買う気にならない。そこで、完全に主観的な本を作ることにした。

本のタイトルを考える。今回は、自分の体験、感想を重視して書くため、「なんでもベスト5」という主観的なものにする。

2、本が出来るまで

私の本の作り方は、まったくアナログ方式である。どうも、こうでないと私は本が作れない。

1、何ページの本にするか

本の出来あがりサイズはA5 版にする。一般的なマンガ本のサイズだ。コミケではこのサイズの本が圧倒的に多い。印刷時は、A4サイズの紙に両面印刷して半分に折りホチキスで止める。ホチキス止めは、あまり分厚くなると針が通らない。せいぜい32ページが限界だ。32 ページというのはA4 の紙にして 8 枚である。今回の本は、内容がそれほど多くないし、気軽に読める本にしたかったので、24~28ページくらいがいいかな、と踏む。

2、全体の構成と章だて

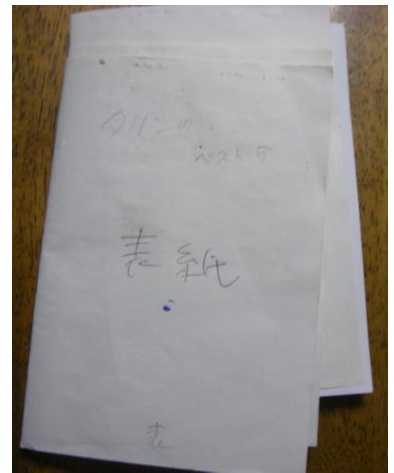
続いて大きな紙に全体の構成を書いてみる。大まかな章や見出しも書き込む。

3、進行スケジュール

★5月～6月

① 見本づくり

あらかじめA4のコピー用紙を半分に折り、出来上がり見本を作り、各ページ下にページ数字を入れる。そこに手書きで、1ページずつ大まかな内容やタイトルを書いていく。写真もこの時点でどんな写真を、どこに入れるかセレクトしておく。



② パソコン入力。

・「ページレイアウト」で、用紙サイズ、余白、文字サイズ、行間、書体などを設定する。

●大失敗！！

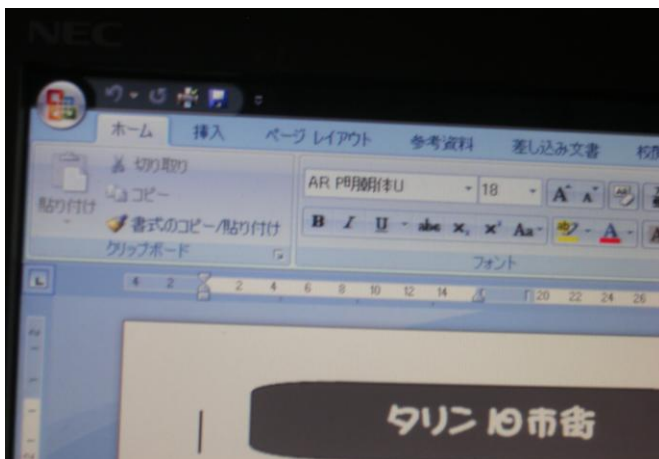
この時点でサイズを確認し忘れた。いつものB5のままで作ってしまい、印刷日直前にプリントアウトして気がついた。予定の日には本が作れなかった。

・あらかじめレイアウトした見本を見ながら、写真以外の残ったスペースに文字を入力する。1ページきっかりで終わるよう文章を削る。写真も入れてみる。挿入の「テキストボックス」を使いまくる。

・いつも借りる飯田橋の印刷機は、性能が悪く、写真が黒くつぶれきれいに出来ない。この時点で、写真の濃さを明るめに設定しておく。カラーもグレイにする。解像度は今後研究したい。

↓まずはパソコン上方の「ページレイアウト」から

↓余白や文字数を設定



★7月1週～3週

- ① 本文をプリントアウトして読み、校正する。私は、パソコンで読むだけだと間違いに気がつかないタイプだ。文章の流れのおかしな所も紙の上で読んでみると気がつく。
- ② もくじのページを作る。全体が完成して、やっともくじも決まる。
- ③ 表紙を考える。本で一番大事なのが表紙である。

写真や、タイトル文字の書体、レイアウト、色など
各種変えて作ってみる。プリントアウトして検討。

4種類の写真で表紙を作ってみた。自分ではどれ
がいいのかわけがわからなくなり、旅遊の仲間や
若者に見せ相談。第3者の意見はとても貴重。

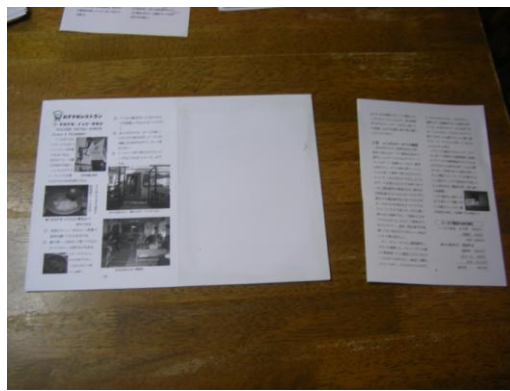
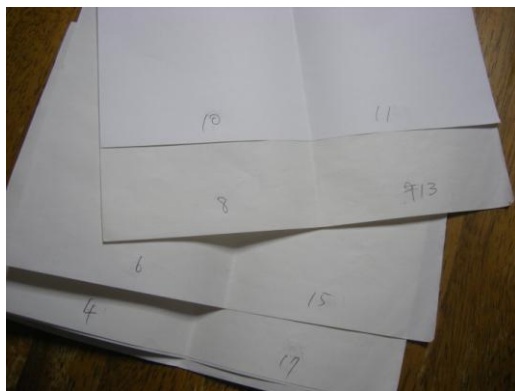
色々タイトルの文字に凝ってみたが、結局パッと
一目で読みやすい極太ゴシック体に決める。

デスクトップに写真を沢山貼り付けたら、PCの動
きが悪く、時々動かなくなったりして、時間がかかる。



★7月21日～8月3日

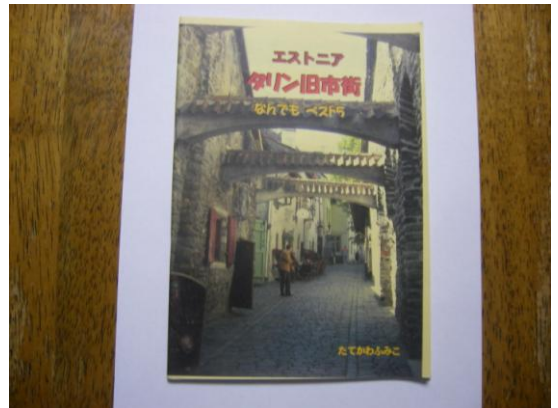
- ① 版型を間違え為、印刷日に一緒に印刷できず。急きよ、以前作ったムーミン本を増刷する。
翌日から、サイズをA5にしてレイアウトし直す。この際、本文の書体を明朝からゴシックに変更。その方が読みやすい。しかし、レイアウトがガタガタに崩れたので、作り直しは予想以上に時間がかかった。次の印刷日まで2週間しかない。今回の一番の山場。半徹夜、早起き。
- ② A5 に直したものを印刷し、A4 のコピー用紙にのりで貼り付ける最後の仕事。出来上がり見本を見ながら慎重に貼っていく。間違えると出来上がった時にページ順にならない。



↓A4の紙に貼り終わったところ



↓見本誌、ついに完成！



★8月4日 最終印刷日

作り直したものを印刷、製本する。今回は3人の仲間が7冊の本を作った。

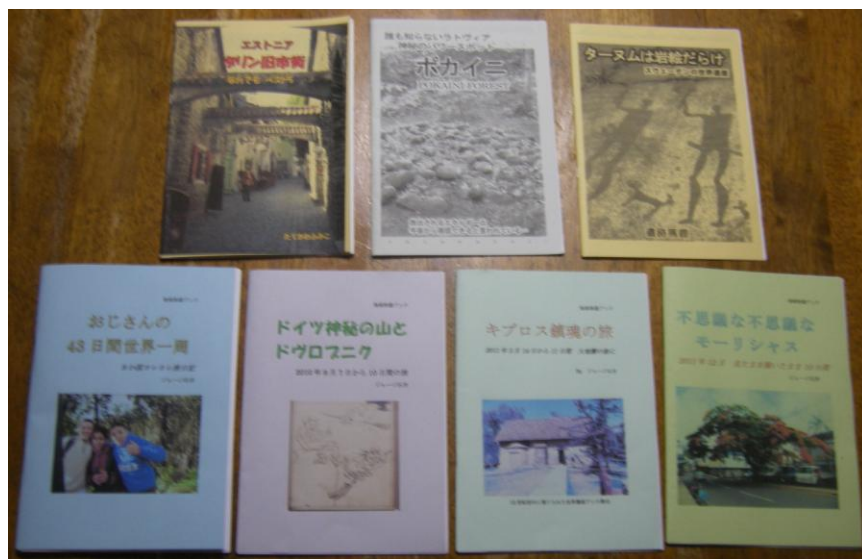


写真 上左から

- 1、 エストニア タリン旧市街
- 2、 ポカイニ
- 3、 ターヌムは遺跡だらけ
- 4、 おじさんの43日間世界一周
- 5、 ドイツ神秘の山とドヴロブニク
- 6、 キプロス鎮魂の旅
- 7、 不思議な不思議なモーリシャス

著者

- たてかわふみこ
遺跡馬鹿
遺跡馬鹿
ジョージ石井
ジョージ石井
ジョージ石井
ジョージ石井

こんな具合で、5月にとりかかり始めて8月に完成、約3カ月かった。途中海外旅行に出てしまい10日間ほどの空白があったが、こんなに時間がかかるとは思っていなかった。パソコン相手の作業なので、動きが止まってしまったらなんにも出来ない。何回も止まってしまい途方にくれた。やむなく一日放置して翌日再挑戦ということになり時間がかかった。パソコンとの付き合いに苦労し、何度も途中でやめたくなった。やはり本づくりは大変な作業である。

3、失敗、反省

- 1、大量の写真をデスクトップに貼り付けた為か、パソコンの動きが悪くなり、作業が進まなくなったのが一番困った。相当イライラした。パソコン次第で進行時間が変わる。
- 2、最初の段階での、「ページレイアウト」で、サイズを A5 に変更しなかったため、いつもの B5 で作ってしまった。最後に印刷して気が付き、結局印刷日に間に合わなかった。

反省

- ・最初の1ページを作ったら、プリントアウトして全体の感じを見る。
出来あがりサイズ、余白、本文の文字の書体や大きさ、文字数、行数、など色々変えてみて**実際に印刷**してみる方が良い。パソコンの画面上と違う。
- ・本文の文字が薄くて読みづらかった。明朝系でなくゴシック系の書体の方が読みやすい。
文字サイズが小さくても書体によって大きくみえるものもある。例えば 9PのAP丸ゴシック体は 10.5pの明朝より読みやすかった。また行間を広くすると小さい文字でも読みやすい。
- ・本文のコピー用紙が薄く、裏写りした。紙の質をチェックして、いいコピー用紙を使うか、両面刷り用の用紙を使う。(お金がかかるが…)
- ・表紙の紙が薄くペラペラだった。値段は高いが写真が良く出る厚い紙を使う方が断然いい。

気がついたこと

- ・ 現地で写真を撮るときは、その場所の入り口とか、背景など、客観的なものも撮る。
- ・ 表紙の紙は、基本的には写真がきれいに出来るもののがいい。でも、ムーミンの本には、ざらっとした素朴なタント紙の方が内容に合っていた。印刷日が迫りゆっくり紙を買いにいくヒマがなかったので、早めにおけばよかったと後悔した。
- ・ 全てにおいてスケジュールに余裕を持たせないと、最後の方に色々大切な作業があり時間が必要になる。次回は印刷日の一週間前に完成するようにスケジュールを組もうと思う。

4、本づくり仲間 ジョージ石井さんの感想

初めての本作り

ジョージ石井

「本を作ってみたら？」と7月21日、飯田橋ボランティアセンターで印刷手伝いをした時に管理人さんと遺跡馬鹿さんから声を掛けられた。

「本はA5判が主流で、空白スペースはこんな感じ」と図で説明してもらった。表紙もないA4版のパンフは作ったことがあるが、全く未知の世界である。「分からないことがあればメールでやりとりしましょう」と優しく言ってくれたが、連日、試行錯誤が続いた。何しろ、パソコンの扱いは半ば素人で、A4の元原稿をA5にすると写真があちこちに飛んでいってしまう。

それでも管理人さんと遺跡馬鹿さんの作品を参考に、昨年末訪れた「不思議な不思議なモーリシャス」の作品ができあがった。そして「地球旅遊」に投稿した「おじさんの世界一周」、「キプロス鎮魂の旅」「ドイツ神秘の山とドヴロブニク」も不恰好ではあるが、出来上がり、8月4日に印刷時に見てもらった。「こんな短期間に読みやすい本ができるとは思わなかった。苦勞したでしょう」と評価してもらった。二人ともほめ上手、教え上手の先生である。

コミックマーケットに本を並べてもらったとき、嬉しいやら恥ずかしいやら。店番をした最初の1時間は、二人の作品は売れていくのに私の作品を手取る人もなかった。「人があまり行ってないモーリシャスとキプロスは売れるかも」というご指摘の通り、最終的には5冊ずつ売れた。二人のアドバイスのおかげで感動的な日になった。そして読み手を意識した作品を作らなければならないし、他の作品から常に学んで良い作品を作っていく姿勢を覚えてもらった。

二人の先生の偉大さを改めて感じた。「地球旅遊」に参加し続けて良かった、と思う。